

梅鶯仏教壮年会報

第136号
2016年
9月17日

梅鶯仏壯聞法親睦旅行（旅程）

◎初日（24日）

京都着

本願寺参拝

龍谷ミュージアム観覧

伝灯奉告法要に合わせて開催される特別展『浄土真宗と本願寺の名宝―受け継が

る美とこころ―』の初日です。学芸員の

に特別解説をお願いする予定です。

心の講座聴講（龍谷響都ホール）

一、「失明によって見えてきた私の人生」

竹下義樹氏

＊日本最初の全盲弁護士

二、「阿呆のすすめ」

ひろさちや氏

＊著名な宗教評論家・執筆家

奈良着

懇親夕食会

村上大胤薬師寺管長とひろさちや氏が、懇親会に参加されます。

◎二日目（25日）

薬師寺参拝

東大寺参拝



薬師寺

薬師寺は「法相宗」（ほっそうしゅう）の大本山で、南都七大寺のひとつに数えられる。本尊は薬師如来で、天武天皇により発願、持統天皇によって本尊開眼、更に文武天皇の代に至り、飛鳥の地において堂宇が完成された。

その後、平城遷都に伴い現在地に移された。平成10年よりユネスコ世界遺産に登録。現管主は村上大胤師。



東大寺

くして建立した寺である。

「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏（るしゃなぶつ）を本尊とし、開山は良弁。

平成10年よりユネスコ世界遺産に登録。現別当（住職）は狭川普文師。



薬師寺管主（住職）
村上大胤師

9歳で薬師寺に入山し、橋本凝胤師に師事。宗務長・副住職を経て、本年8月に住職に就任。

現代の様々な問題を、「歴史観」「宗教精神」を踏まえて各地で講演を行う。

平城遷都1300年の際にはフランスでの声明公演やイギリス大英博物館での講演など、「まほろば奈良」の顕彰に努める。

法相宗の開祖、玄奘三蔵の足跡を訪ねて、毎年インドや中国・中央アジアへ巡礼を行っている。



宗教評論家であり執筆家。数多くの著書がある。

ひろさちや氏

東京大学で印度哲学言葉で多数の入門書を執筆し、一般の人々に仏教を身近な物として再認識させた。

現在、本来の仏教を伝えるべく執筆と講演活動を行なっている。ご自身の宗教は浄土宗。

＊お二方とも懇親会にご参加頂きます。

題材法話

浄土真宗のみ教え ⑥ 「真実の教え」

＊拝読本をお読み下さい
前号からのつづき

お釈迦様は、一人ひとりの相手に合わせたふさわしいお説教をなされたため、お説教の数は数えきれず、一八万四千の法門」「一切経」「大蔵経」と呼ばれ、「般若心経」や「法華経」もその中の一つです。

ところが、南無阿弥陀仏のみ教えについてご説法される時の様子は特別であつたということですが、その教えが説かれていく「仏説無量寿経」に記されています。

○阿難尊者の問い
「仏説無量寿經」として著される南無阿弥陀仏のみ教えは、お釈迦様が王舎城の耆闍崛山（ぎしゃくつせん）という所でご説法なされました。

ところがそのご説法をなされる時のお釈迦様はお顔だけでなく、全身が喜びに満ちあふ



れているのです。そこで釈迦様の十大弟子の一人である阿難尊者が思わぬお釈迦様にたずねられるのです。
 『私は長い間、お仕えしてきましたが、今日のようには、尊く光り輝くおすがたに、いまだかつてありませんでした。これには何か理由があるのだらうと思ひます。推察致しますに、お釈迦様は、深いさとりに入られて、そのさとりの世界から、迷いの人々にさとりを聞かせて、お救いになろうとして、いるのではないでしようか。どうぞ、そのお心を説き下さい』
 その問いに對してお釈迦様はお応えになられます。
 『そなたは素晴らしいことをたずねた。私はこれから、私がこの世に出現した本當の目的を説き明かそうとしてゐる。それは、あらゆる迷いの人々に眞實の利益をあたえて、安らぎを与えることである。
 それゆえ、このように光り輝く姿を現したのである』
 そして、お釈迦



様は阿弥陀如来の本願を説
き始められたのです。
それは「あなたが浄土
に往生できないなら、私も
正覚の仏とは成らない」と
の誓いでありました。

○お釈迦様の出世本懐

煩惱の世界に苦悩し、そ
こから抜け出せない私達が
唯一救われる道としてお示
しになられたのが阿弥陀さ
まのご本願による救いだっ
たのです。

親鸞聖人は、この南無阿彌陀仏の教えを説くことこそが、お釈迦様がこの世にお出ましになられた本来の目的であつたことを明らかにされ、正信偈で、

「如来所以興出世」
「唯説弥陀本願海」

（お釈迦様が世にお出ましになられたのは、唯々阿彌陀様の本願を説くためであつた）

と悦んでおられます。

「出世本懐」とはこの世
にお生まれになつ
た本当の目的とい
う意味ですが、正
にお釈迦様の「出
世本懐」は仏説無



量寿経を説くためであつたのです。

○真実の教え

法然上人も「仏教にはさまざまな經典があり、それぞれに尊重すべきではあるが、自分にとって本当によりどころとなるものは、阿彌陀如来の本願による往生成仏を説く「浄土三部經」である」と仰せになつておられます。

このご本願のはたらきに
出会うことがなければ、不
安と苦悩の人生で、ただ愚
痴をこぼして、ただ涙を流
して終わっていくだけかも
しれません。

それでは、あまりにも虚
しい人生となってしまうで
しょう。

お釈迦様が、
「唯説弥陀本願海」
であるならば、私たちは、

「唯々聴彌陀本願海」
唯々阿彌陀様の本願

願を聴かせて頂く
ことこそが肝要な
のでしよう。

